

無資格助産で産科医院搜索 看護師が内診の疑い

年間出産数が約3000人と日本有数の産科婦人科「堀病院」（横浜市瀬谷区、堀健一院長）で平成15年12月に医師か助産師しか認められていない出産時の「内診」を看護師に行わせていた疑いが強まり、神奈川県警生活経済課は24日、保健師助産師看護師法違反の疑いで同病院などを家宅搜索し、堀院長ら関係者から事情を聴いた。捜査の発端は平成15年12月に堀病院で長女を出産後、死亡した女性（当時37歳）の夫からの相談だった。県警は、夫が証拠保全した資料の検証を専門家に依頼、元病院職員からも極秘に聴取した。年間出産数3000件とアピールするばかり病院だが、規模に比べ助産師数が少ないことにも注目。看護師らによる助産行為が常態化していた疑いが強いとみて強制捜査に踏み切った。堀病院での出産件数は昨年1年で2953件に上るが、常勤の産科医は6人で、助産師は5人だった。

搜索対象は院長や職員の自宅なども含め計二十数カ所で、カルテや分娩（ぶんべん）記録などを押収した。生活経済課は、医師の管理下で無資格助産が恒常化していた疑いもあるとみて捜査する。同法違反で医療機関に強制捜査が入るのは極めて異例。厚生労働省は14年11月、看護師の内診を明確に禁じた通知を出しているが、通知から1年が経過していたのに看護師による内診が行われていた可能性がある。

調べでは、堀病院は15年12月29日、出産で入院していた女性（37）の内診を、看護師や准看護師にさせていた疑い。関係者によると、女性は同日入院。分娩室に移動するまで数回にわたり、看護師や准看護師が子宮口の開き具合を確認するなどの内診をしていたとみられる。女児を出産後、出血量が多く止血できなくなり、神奈川県内の別の病院に転院。子宮摘出手術を受けたが手術中に心停止し、蘇生（そせい）したものの多臓器不全のため16年2月に亡くなった。

同病院側は「現在捜査に立ち会っており、何もコメントできない」と話した。

看護師による内診の是非をめぐっては「一定条件下で可能」（日本医師会など）として容認を求める意見もあり、議論が続いているが、厚労省看護課は「今すぐに見直すつもりはない」としている。（産経新聞 8月24日）

無資格助産の堀病院 違法性の一部否認

「助産師不足から私の指示でやらせていたが、法に触れるとは思っていなかった」 - 。助産資格の持たない看護師による内診行為で、27日に計11人が書類送検された堀病院。堀健一院長は現在、当初認めていた違法性について一部否認に転じる供述をしているという。看護師による内診は全国各地の医療機関で長年行われてきており、無資格助産行為を

めぐっては、刑事処分の内容もそれぞれ異なる。産科医療の在り方をめぐる「お産論争」にまで発展した堀病院事件で、横浜地検がどのような判断を下すか注目される。

違法性認識で対立

堀病院が書類送検された保健師助産師看護師法は、助産師、看護師、准看護師の資格や業務について定めた法律。ただし、具体的な業務内容に関しては記しておらず、産科医は長年、医師の指示のもとで看護師の内診はできると解釈していたようだ。

だが、厚生労働省は平成14年と16年に2度にわたって、看護師の内診行為禁止を医療機関に通知。県警は、年間3000件の出産数を誇る堀病院が、厚労省の通知を無視して確信的に無資格助産を続けていた点を「悪質」と判断し書類送検に踏み切った。県警が押収したカルテなどを分析した結果、堀病院では過去3年間に診察を受けた妊婦約7900人のうち、9割以上の妊婦が無資格の看護師に内診を受けていたことが判明している。堀院長は8月の家宅捜索直後の会見で、「法律違反と知っていたが、お産を減らすわけにはいかなかった」と話していたが、その後の県警の聴取には「厚労省の通知は要望と思っていた。教育したベテラン看護師がやっているから、うちは問題ないと思っていた」と供述。一緒に送検された看護師ら10人が容疑を認める一方で、院長だけが一部否認している状況という。

分かれる刑事処分

県警が堀病院への捜査の端緒としたのは、15年12月29日の出産。妊婦＝当時(37)＝は出産の際、無資格看護師ら4人の内診を受けて女児を出産したが、その後に体調を崩し、約2カ月後に死亡した。

夫が被害届を出し県警が捜査に着手。県警の家宅捜索後、日本産婦人科医会は「母体の死亡と看護師による内診は関係がない」との見解を示したうえで、「看護師の内診が認められないなら産科医療は崩壊する」と反発した。背景には「助産師不足」という「お産」をめぐる構造的な問題がある。

こうした事情もあるためか、無資格助産行為に関する刑事処分の内容は真っ二つに分かれている。14年に発覚した鹿児島県鹿屋市の産婦人科医院のケースでは、書類送検された院長ら計5人全員が不起訴処分に。今月10日には、愛知県豊橋市の産院院長ら3人を、名古屋地検が起訴猶予にした。「違法だという明確な認識がなく、健康被害の危険性も認められない」というのがその理由だった。一方で、15年に千葉県茂原市の産院院長が書類送検された事件では、罰金50万円が確定している。

県内では、堀病院のほかにも、これまでに10医療機関で無資格助産行為が発覚している。中には堀病院の事件が明るみに出た後も無資格助産を行っていた医療機関もあったという。横浜地検はこうした実情も踏まえ、堀院長らの違法性の認識や無資格助産の危険性を慎重に検討したうえで、立件の可否を最終判断する方針だ。産科医や助産師不足は全国的な問題。日本産婦人科医会などは医師の指示のもとで看護師に内診を認めるように国に申請し

ており、「医師不足の現状で看護師が内診できないと、さらに廃業者が増える」と主張。厚生労働省は、保助看法に基づいて看護師が内診を行ってはならないと各自治体に通知している。（保健師助産師看護法（保助看法）第3条ならびに第30条によれば、妊婦、新生児の保険業務は助産師しか行えない。）

堀病院は27日、書類送検されたのを受けて、「関係各位にご心配をお掛けすることとなり深くおわび申し上げる」と謝罪したうえで、「現場で働く助産師が非常に少ないのが現実。今回の捜査が、産科医療の改善に向けた議論の契機となれば」とコメント。同病院側代理人の小西貞行弁護士も「産科医療の現状を踏まえた適切な処分がなされるものと確信している」と話した。

（産経新聞 11/28）

堀病院・無資格助産事件 横浜市予算案、助成に8百万 / 神奈川

産科医連携や潜在助産師活用

産婦人科病院「堀病院」（横浜市瀬谷区）による無資格助産事件を機に、横浜市は新年度から緊急産科医療対策に本格的に乗り出す。病院や診療所での産婦人科医師の連携促進や助産師の研修に助成をするなど、新年度当初予算案に新規事業として800万円の予算を盛り込んだ。事件を機にクローズアップされた分娩（ぶんべん）を取り扱う医療機関の減少や、助産師の偏在・不足に対応するのが狙い。

市内で分娩できる病院、診療所、助産所は04年度に65施設あったが、昨年3月の調査で56施設に減った。同市は地域ごとに出産は病院と助産所で、健康診断は診療所で役割分担する「セミオープンシステム」を支援する。システム導入を前提に、診療所の医師が病院に非常勤で勤務するなど連携する連絡協議会や、医療機関の間で情報交換をする勉強会や症例研究会の開催に助成する。

資格はあるのに子育てや夜勤の激務などで産科医療から離れている潜在助産師や、産科医療の現場にいても分娩に携わっていない病院の助産師の活用も目指す。助産所が病院の助産師を受け入れる研修や、昨年12月に開催して好評だった「潜在助産師研修会」などを実施する経費を助成する。

（1月12日毎日新聞）

< 考察 >

私も助産師になりたいと思う前に、実際、看護師と助産師の違いは何かと思うときがありました。でも、実際、授業を受けたり分娩に立ち合わせてもらったりすると、分娩は本当に大変で妊婦さんにとっては一大イベントで出血や痛みなど命に関ることだと感じました。助産介助をするということは母体と胎児の2人分の命を預かり、妊婦さんに安全安楽にお産してもらうということを第一に考えています。看護師が内診を行うことは、専門的な知識を学んでいないということと資格を持っていない=責任がないということが考えられ、妊婦さんに対して失礼であると思うし、本来の助産介助の考え方が守られていないと思います。そして、内診では分娩の進行状況や母体や胎児の様子など得られる情報はたくさんありとても大事な診察の一つです。それは、きちんとした知識のある人が行ってこそ機能が発揮されると思います。また、分娩の前後で、分娩の促進や産後の回復の促進や、分娩中の母体・胎児に対する負担の軽減、お産に対する体力維持などいかに女性が精神的や身体的な負担が少なくお産が出来るかを援助することが大切ですし、また、異常出産予防や異常の早期発見など観察が非常に大事になってきます。やはり専門的な知識がないと、その分お産の危険性や妊婦さんへの負担が大きくなると思います。今回の事件は母体の死亡と看護師の内診は関係があったとは考えにくいと書いていたけれど、実際に起こってしまってからでは遅いのでその点は考えていく必要があると思います。

最後に、私は今回のことで助産師の不足が問題になっていて、出産難民やお産難民（産科医や小児科医の減少に伴い顕在化した、病院出産を希望しながらも希望する地域に適切な出産施設がない、あるいは施設はあっても分娩予約が一杯で受け付けてもらえない妊婦の境遇を、行き場を失った難民になぞらえた言葉である。）という方々がいるということも初めて知りました。妊婦さんにはどんな人が自分の異常出産の予防に尽力してくれるのか、お産にどのようにしてくれるのか、産後はどこまで勉強している人がみてるのか、しっかり見てもらいたいと思うけれど、それも難しくなっているんだなと学びました。妊婦さん自身、妊娠ということで、負担や不安などいろんなことを抱えているので病院や助産所選びが簡単にスムーズに行えるようになってもらいたいなと思いました。